教育講演 8



標準理学療法と個別アプローチの共存と推進

東京工科大学
乙戸 崇寛

本会における標準理学療法の取り組みの一つに、「理学療法診療ガイドライン」(第 1 版は 2011 年、第 2 版は 2021 年に発刊）の普及が挙げられる。診療ガイドラインは、学会として標準治療に値すると判断した内容を社会へ広く発信するものであり、患者（対象者）にとって有益である。一方、診療ガイドラインでは個別的な記載は最小限度となるため、日々の臨床場面においては効果的と考える個別治療や教育・指導もあわせて実施しているであろう。

「標準」と「個別」の概念は対極であるため、一方を採用した場合は他方を軽視する傾向がある。特に個別アプローチを重視する理学療法士にとっては標準理学療法の存在や考え方に否定的なイメージを持っているかもしれない。

標準理学療法、個別アプローチともに理論的に正しい治療メカニズムに則ることは共通している。しかし、担当する患者（対象者）が「自分の行っていることは本当に正しいのか」、「同じ痛みが他の人にも生じているのか」など、治療経過に対して不安を感じている場合は、個別アプローチだけではなく標準理学療法を解説して「治療の現在地」を共有し、これらの不安に応えるべきであると考える。

本講演では、標準理学療法と個別アプローチの関係を整理するため、1）標準理学療法への取り組みと利点、2）個別アプローチを定量化する試みと限界、について概説後、標準理学療法と個別アプローチの共通点を模索し、3)標準理学療法と個別アプローチの共存と推進について提案したい。特に、患者（対象者）の不安や治療へのモチベーションに対応するためには個別性の高い患者教育が重要であるという近年の報告に基づき、治療パンフレットの在り方、患者教育用デジタルプラットフォーム構築の必要性、さらには個別アプローチで発揮すべき理学療法士のリテラシーについて再考する。本講演が本学術大会のテーマである「運動器理学療法への動機付けと自信を教育する」ことにつながることを期待したい。

略歴

【現職】
東京工科大学　医療保健学部リハビリテーション学科　理学療法学専攻　教授

【経歴】
1994 年　埼玉医科大学短期大学理学療法学科　卒業
1994 年　自治医科大学附属大宮（現さいたま）医療センター　理学療法士
2002 年　早稲田医療技術専門学校（現人間総合科学大学）理学療法学科　専任教員
2009 年　埼玉医科大学保健医療学部理学療法学科　講師
2014 年　同　准教授
2020 年　同　教授
2022 年　東京工科大学医療保健学部リハビリテーション学科　理学療法学専攻　教授（現在に至る）